

日本こころの安全とケア学会誌 雑誌投稿規程

本誌へ投稿する原稿の内容はこころの安全とケアについて扱ったものであり、本会の設立趣旨にかなったものとする。なお、包括的暴力防止プログラムに関する研究に限定する必要はない。

1. 投稿者の資格

本誌投稿における筆頭著者は本学会会員とする。共著者は非会員でも構わない。ただし、学術委員会から依頼された原稿はこの限りではない。

2. 著者資格

1) 著者

著者は、研究において大きな貢献を果たした人物でなければならない。

著者資格は以下の（１）から（４）のすべてを満たしていなければならない

- （１）研究の着想及びデザイン、データ収集、データ分析および解釈に寄与した。
- （２）論文の作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した。
- （３）出版原稿の最終承認を行った。
- （４）研究のあらゆる部分に関する説明責任があることに同意した。

名義のみの著者（ギフトオーサiership）や、実質的な貢献者を著者に含めない行為（ゴーストオーサiership）は認めない。責任者は、上述の著者資格（１）から（４）の基準を完全に満たしている必要があり、学術委員会は責任者に対して「投稿原稿執筆者および利益相反開示（COI）」の詳細を要求する。

2) 研究貢献者

著者資格の基準を満たさない研究貢献者は、すべて「謝辞」の項に列挙する。

3. 投稿の内容と種類

- 投稿論文の内容は、広くこころの安全とケアの研究に関するものであり本学会の設立趣旨にかなった、ケアに関する学術・技術・実践についての「論文」とする。趣旨に沿わない場合は原稿を受理しない場合がある。
- 投稿者は、投稿時に以下の原稿種別のいずれかを申告する。ただし、学術委員会の判断により希望どおりの原稿種別では採用にならない場合がある。
- 投稿論文は学術雑誌に未発表のものに限る。学術集会での発表は、学術雑誌への論文収載ではないので未発表と見なす。

1) 投稿論文の種類

【原著論文】

学術上および技術上価値ある新しい研究成果を記述したもの。

【研究報告】

学術上および技術上価値ある研究成果で、前掲「原著論文」と比較すると論文としての完成度にはやや難があるが、早く発表する価値があるもの。

【実践報告】

技術的な問題についての実践結果の報告で、その手段あるいは得られた成果が大きな波及効果を期待できるもの。

【総説】

特定の問題に関する内外の文献を網羅的に集めて分析・検討した論文。

【資料・その他】

上記のいずれにも相当しないが、公表する価値があるもの。

以上、投稿論文の制限枚数はタイトル、抄録、本文、文献、図、表および写真を含めてすべて 16 枚（約 1,000 字/枚）以内とする。

4. 研究倫理

本誌に投稿する研究は、関連する法令および倫理指針を遵守して実施されたものでなければならない。人を対象とする研究については、文部科学省、厚生労働省および経済産業省が定める「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等に準拠して実施されたものであること。

人または動物を対象とする研究は、原則として、投稿者の所属機関または研究実施機関の研究倫理審査委員会（または動物実験委員会等）の承認を受けて実施されたものでなければならない。研究倫理審査を要する研究については、研究対象者からインフォームド・コンセントを取得した場合は、その旨を記載すること。なお、掲載確定後に本文中に倫理審査委員会の名称および承認番号を明記し、掲載が確定するまでは「本研究は、筆者の所属する大学の倫理審査委員会の承認を得た（承認番号〇〇〇〇）。」のように個人が特定されないように記載する。

学術委員会は、以下に該当する行為が認められた場合には、投稿論文の不採択、掲載取消し等の措置を講じるとともに、必要に応じて一定期間の投稿および学術集会での発表を制限する等の措置を講じることがある。。

1) **二重投稿・重複投稿**：投稿論文は未発表のものであり、他誌に投稿中であってはならない。既に印刷媒体または電子媒体で公表された論文と実質的に同一または極めて類似した内容の論文を投稿すること（二重投稿・重複投稿）を禁止する。

2) **盗用・剽窃**：他者の文章、図表、データ、アイデア等を、適切な引用や許諾を得ることなく使用することを禁止する。また、自己の既発表論文の文章や図表等を適切な表示なく再利用する自己盗用についても認めない。

3) **研究不正**：研究データの捏造、改ざんは、重大な研究不正として禁止する。

5. 英文抄録のネイティブ・チェック

原著論文と研究報告については掲載が決定した段階で英文抄録をつける。英文抄録については、ネイティブ・チェックを受ける。間違いがないことを証明する確認書を提出する。

6. 投稿前チェックリスト

投稿する際には、投稿論文チェックリストで「雑誌投稿規程」および「原稿執筆要項」に合致していることを確認のうえ署名する。

7. 利益相反自己申告書

利益相反自己申告書で、著者全員が研究内容に関係する企業・組織または団体との利益相反状態を記載し、PDF ファイル（もしくは JPEG ファイル）に変換後、原稿と同時に送付する。

8. 原稿の受付

原稿は随時受けつけているが、雑誌投稿規程および原稿執筆要項に沿わない原稿は受理できない。

9. 投稿論文の採否

- 投稿論文の採否は、本学会学術委員会による査読過程を経たうえで、学術委員会が最終

決定を行う。採用の条件として、論文種別の変更を投稿者に求めることがある。

- 査読の結果が「修正のうえ再査読」の場合、所定の期間内に修正された原稿については、改めて査読を行う。
- 査読は原則 2 回をめどとし、1 回の査読後の修正期間は 2 か月とする。2 か月を過ぎた場合には再投稿となる。採用が決定したあと、最終原稿を提出する。
- 原稿受付日は形式が整った論文が投稿された日とする。採用日とともに誌上に明記する。
- 「不採用」と通知された場合で、その「不採用」という結果に対して投稿者が明らかに不当と考える場合には、学術委員長あてに異議申し立てをすることができる。
- なお、原稿は原則として返却しない。

10. 校正

初回校正は著者が行う。校正は誤植等の訂正に限り、内容の加筆、修正または変更は認めない。2 回目以降の校正は学術委員会が行う。

11. 原稿掲載料・別刷料

- 投稿論文が 16 枚以下の場合、掲載料は無料とする。
- 16 枚を超過した場合は所定の料金を徴収する。超過料金は刷り上がり超過分 1 頁につき 5,000 円（実費）を日本こころの安全とケア学会に納入する。
- 別刷については、基本的には提供しない。紙媒体の別刷が必要な場合は、投稿者が直接印刷業者と交渉する。印刷会社の連絡先は Email (jascmh-acd@umin.ac.jp) に問い合わせる。

12. 著作権

- 会員の権利保護のために、掲載された論文の著作権は本会に属するものとする。
- 本誌の論文を雑誌、書籍等に引用する場合は、必要最小限の範囲とし、出典（著者氏名、題名、掲載雑誌名、巻号、ページ数等）を明記する。ただし、論文内容を改変して転載する場合は、転載許可申請書（形式は自由）を事務局宛に郵送し、事前に学術委員長の許可を得る。
- 本誌の論文を所属機関のリポジトリ等に収載する場合は、登録許可申請書（形式は自由）を事務局宛に郵送し、事前に学術委員長の許可を得る。

13. 投稿手続き

1) 初回投稿

投稿原稿は以下の要領に従って電子ファイルを作成し、E-mail（原稿送付先：jascmh-acd@umin.ac.jp）に添付して送る。郵送での投稿は受け付けない。

初回投稿時に必要な書類は、タイトルページ、投稿論文、投稿論文チェックリスト、利益相反自己申告書の 4 つである。それぞれ、Microsoft 社の Word や Excel、PowerPoint を使用して作成し、PDF ファイルまたは docx フォーマット形式での提出とする。

- **タイトルページ**：以下の（1）～（11）について記載し、提出する。

- （1）タイトル
- （2）希望する論文区分
- （3）本文枚数、図表写真枚数
- （4）著者氏名および著者所属先
- （5）責任著者の連絡先
- （6）倫理審査に関する情報（倫理審査委員会名、承認番号）
- （7）研究資金に関する情報（該当する場合）
- （8）利益相反（COI）の有無
- （9）著者貢献

(10) 謝辞

(11) 生成 AI の利用に関する開示（利用した場合）

- **投稿論文**：以下の (1) ～ (4) を一つのファイルにまとめて保存する。本学会誌はダブルブラインド査読を採用している。本文中に投稿者が特定できるような内容は、特定される部分を黒塗り、あるいは「●」などの記号に置き換えたものとする（特に倫理審査会名、倫理審査承認番号等を明記しないように注意する）。また、ファイルのプロパティに含まれる作成者等の個人情報（メタデータ）は削除した上で提出すること。詳細は原稿執筆要項参照。
 - (1) タイトル、和文抄録、キーワード
 - (2) 本文（はじめに、目的、方法、結果、考察、結論等）
 - (3) 引用文献リスト
 - (4) 図、表、写真
- **投稿論文チェックリスト／利益相反自己申告書**：本学会のフォーマットにしたがって、原稿の最終点検を行う。

2) 査読後の再投稿

再投稿時に必要な書類は、修正原稿、タイトルページ、投稿論文チェックリスト、利益相反自己申告書、査読回答書の 5 つである。これらについて以下の点に留意し提出する。それぞれ、Microsoft 社の Word や Excel、PowerPoint を使用して作成し、PDF ファイルまたは docx フォーマット形式での提出とする。

- 再投稿の際のメールの件名および文面に必ず論文番号を記載すること。
- 修正原稿にはページ数及び行番号を明示すること。
- 修正原稿では、修正箇所が分かるように、**マーカー**を引くか、下線を引くこと。
- 査読回答書には、どのように修正したのか、本文のページと行番号を記載すること。

3) 掲載受理後

原稿の掲載が受理された後、以下の (1) ～ (12) の順に 1 つの「.docx ファイル」にまとめた最終原稿、編集ができる図表ファイル、最終チェックリスト、利益相反自己申告書、英文校正証明書の 5 つを提出してください。なお、図表のファイルは最終原稿に含めるとともに、「.docx」「.pptx」もしくは「.ppt」、「.xls」もしくは「.xlsx」など編集ができるファイル形式での提出も要する。

- (1) タイトル
- (2) 著者および著者所属先
- (3) 和文抄録・英文抄録
- (4) 和文キーワード・Key words
- (5) 倫理審査委員会名および承認番号を記載した論文本文
- (6) 引用文献
- (7) 図・表・写真
- (8) 研究資金に関する情報（該当する場合）
- (9) 利益相反（COI）の有無
- (10) 著者の貢献
- (11) 謝辞
- (12) 生成 AI の利用に関する開示（利用した場合）

14. 原稿執筆要項

1) 原稿の書式

- MS 明朝・MS ゴシック（日本語）、Times New Roman（英語）フォント、10.5 ポイントを使用し、MS-Word で作成する。

- 原稿は A4 判横書きで、書式は左右余白 30mm、上下余白 50mm とし、1 行の文字数を 40 字、1 ページの行数を 25 行（約 1,000 字）とする。
- 和文の場合、外来語はカタカナで、人名、適当な日本語訳がない場合は原則として原綴のままで書く。
- 投稿論文・修正原稿には中央下にページ番号を挿入し、行番号について連続番号（タイトルから文献まで連続した番号）を加える。
- 文章は簡潔でわかりやすく記述する。文体は「である調」を基本とする。
- 読点は縦書きの際に通常使用する「、」ではなく「，（全角コンマ）」とし、句点は読点との区別を明瞭にするために「。（全角句点）」とする。
- 本文や図表中(文献は除く)で用いられる数量を表示するための数字および欧文については、半角文字を使用する。ただし、1 桁の数字および 1 文字のみの欧文(A 氏など)の場合は全角文字とする。
- 論文の構成をわかりやすく提示するために見出しを階層化する。

I. II. III.

1. 2. 3.

1) 2) 3)

2) 図表および写真

図表および写真は図 1、表 1、写真 1、等の番号を付けて、大きいものは 1 ページに 1 点、小さいものは 1 ページに 2 点として作成する。

3) 文献記載の様式

本文中の文献記載は、以下のようにし、(丸括弧)は半角とする。

- 『著者名，発行年次(西暦年次)』を括弧表示する。例: 下里(2023)は…と述べている。
- 著者が複数いる場合は、3 名を記載し、4 名以降の著者は『ら』『(et al.)』として省略する。例: …である(下里, 塩江, 西谷ら, 2007)。
- 翻訳本を引用する場合、本文中では、(原著者名, 原著の発行年／翻訳書の発行年)と記載する。例: (Benson, 2000/2007)

引用文献の記載は、基本的に APA スタイルに準拠する。

- 「,」 「.」 は半角とする。
- 文献は、本文末尾に一括して 2 行目から 2 マス下げて表記する。
- 著者名の和洋を問わずアルファベット順に列記する。
- 雑誌名は斜体とする。
- DOI がある場合は DOI を表示する。
- 著者名は 6 人目の著者まで表記し、7 番目以降の著者は、『ら』『(et al.)』として省略する。

〈雑誌の例〉 著者名 (発行年). 表題名. 雑誌名, 巻(号), 開始ページ終了ページ.

下里誠二, 塩江邦彦, 松尾康志, 西谷博則, 石川博康他. (2007). Broset Violence Checklist (BVC)日本語版による精神科閉鎖病棟における暴力の短期予測の検討. *精神医学*, 49(5), 529-537.

Shimosato S., Kinoshita A. (2018). Degree of Anger During Anger-Generating Situations Among Psychiatric Staff Nurses: Association Between Nurses' Attitudes Toward Service Users' Aggression and Confidence in Intervening in Aggressive Situations. *Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services*, 56(9), 51-59. <https://doi.org/10.3928/02793695-20180322-02>

- 英語書籍の場合、書籍タイトルは斜体とする。
- 同一書籍からの本文引用の箇所が 1 か所である場合は開始ページと終了ページを記載するが、引用箇所が複数にわたる場合は文献リストにページを記載せず、本文中の引用箇所該当ページを記載する。
- 章の著者名表示がある場合は、『論文あるいは章著者名. (発行年次). 表題. 編集者名 (編), 書籍名 (pp.開始ページ-終了ページ). 出版元.』となる

〈書籍の例〉 著者名. (発行年). 書籍タイトル (pp.開始ページ-終了ページ) . 出版元.

小塩真司. (2010). 共分散構造分析 はじめの一步 (pp.162-163). アルテ.

Paterson B., Turnbull J. (1999). Aggression and Violence Approaches to Effective Management (pp.25-50). Macmillan Education.

下里誠二. (2004). 暴力はどのように研究されてきたか. 包括的暴力防止プログラム認定委員会(編), 医療職のための包括的暴力防止プログラムマニュアル (pp. 23-27). 医学書院.

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日より発効する。

この規程の改定は、平成 31 年 2 月 9 日より施行する。

この規定の改定は、令和 2 年 9 月 1 日より施行する。

この規程の改定は、令和 3 年 2 月 1 日より施行する。

この規程の改定は、令和 3 年 3 月 31 日より施行する。

この規程の改訂は、令和 6 年 5 月 30 日より施行する。

この規程の改訂は、令和 6 年 11 月 26 日より施行する。

この規定の改訂は、令和 8 年 8 月 25 日より施行する。